**高校生の部 ：　警視庁給与厚生課長賞**

**命の大切さ**

県立会津坂下高等学校１年 蓮沼 彩音

 　私は､今回の命の大切さを学ぶ教室を受講して、改めて「命の大切さ」について考えさせられました。

私は、中学三年生の時にいじめにあいました。それは部活動でのいじめから始まりました。私は吹奏楽部に所属していました。「部室に入ったら挨拶をする」という約束があったにも関わらず、挨拶しても無視されたり、私だけ曲の練習をすることを止められたり、変なうわさを流されました。やがて、学年、部活を問わず、学校内の男子にあだ名をつけられ、バカにされました。このいじめがきっかけで部活をやめて死んでしまいたいと言うところまで追い詰められました。ところが、私はある一人の先生のお陰で吹奏楽を続け、中学校生活残りの半年を楽しく過ごす事が出来ました。

 それは、三年生の時の担任の先生でした。こんなにもクラスの中を細かく見て、一人一人の事を考えてくれる先生は、十五年間生きてきて初めてでした。相談に乗って欲しい時はいつでも時間を作ってくれて、話したい時にだけ話を聞いてくれる先生でした。部活をやめたいと相談した時も「やめたらいじめは無くなるのか？やめても何も変わらないんじゃないか？」と解決する方法まで一緒に考えてくれ、いじめが無くなったわけではありませんでしたが、中学校生活を最後まで楽しく過ごすことが出来ました。きっとその先生がいなければ、私は楽しく中学校生活を終えることが出来ていなかったでしょう。

 もう一つ、私は三年前から二型糖尿病を患っています。二型糖尿病は一度患ってしまったら一生付き合って行かなければなりませんが、コントロールが良くなければ薬もいらなくなります。私は今、一日一回自分で注射をしています。注射を始めたころは「注射をしているから皆と同じようには出来ない」や、「病気のことは、皆には隠そう」とふさぎこんでいる部分がありました。今は気を付けなければならないこともありますが、皆と同じように勉強や部活をすることが出来ていることが何より嬉しいです。

 今考えてみれば、生きたいのに生きられない人や私が体験したいじめ以上に辛いいじめにあっている人がいると思います。その中には､自殺をしたいと考えている人もいるかもしれません。ですが、私は、そんな人達に「命があるかぎり､自分なりに､精一杯生きていれば､幸せな事や楽しい事をきっと見つけだせるはず！」と伝えたいです。辛いことがあってもそれを乗り越えれば､幸せは誰にでも訪れるのです。

 以前の私は「誰にでも必ず明日はやって来る」という考えでした。そんな私は､自分や自分の大切な人の命がいきなり明日なくなってしまうことなど考えていなかったでしょう。それゆえ、学校に行く時、遊びに行く時の「気をつけてね」という母の言葉についても、なんとも思っていませんでした。「交通のルールを守っていれば、事故とは無縁だ」と思っていました。

 そんな考えの中行われた命の授業。以前にも命の大切さの授業は行われていましたが、ほとんどは、交通ルールを守らずに亡くなった話だったので「交通ルールは守ろう」という軽い気持ちでした。今回、受講して交通ルールを守っていても交通事故や死と隣り合わせだということを感じました。

 悲惨な事故が、加害者の不注意によって発生してしまったら、尊い人命が奪われ、被害者の家族も一生の悲しみとともに生き続けていかなければならないのです。

 私は、これから、自分を支えてくれる家族や友人がいること、命があることに感謝して一日一日を大切にしようと思いました。